

「GIGA スクール」に関する実態調査

NPO 法人「子どもとメディア」

経済産業省主導の教育改革「GIGA スクール構想」は、新型コロナ対策として前倒しされ、2020 年度から全面実施となりました。突然の環境変化に教育現場は困惑し、各学校の対応もバラバラです。そこで、私たち NPO 子どもとメディアでは 2022 年 2 月 20 日に GIGA スクールに関して、セミナー（対面＋web）を計画しております。その準備として、全ての小中学生にタブレットの端末が配布された運用状況を調査することといたしました。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

学校からの配布資料などがあれば、メール添付で送っていただければありがたいです。質問によっては複数回答も可です。



記入日（ ）

記入者（ ） 連絡先（ ）

<調査内容>

【1】調査対象校

- ①学校名（ ） 町・村・市・県立（ ） 小・中学校
- ②回答対象学年（小1・2・3・4・5・6・中1・2・3）
- ③記入者と学校との関係
  - ア、勤務先 イ、子どもの通学先 ウ、講演先 エ、その他（ ）

【2】使用実態について

- ①機種 ア、パソコン イ、タブレット ウ、その他（ ）
- ②授業での使用実態
  - ア、全教科 イ、特定教科（ ） ウ、現段階では使用せず
- ③使用形態
  - ア、昼休みなど在校中は常時使用可能 イ、授業時間のみ配布、使用
  - ウ、自宅にも持ち帰らせて使用（ ）月より エ、学校が保管したまま使用せず
- ④学校での総使用時間（合計スクリーンタイム）
  - ア、制限なし イ、制限あり（内容： ）
  - ウ、ガイドランあり エ、総使用時間を意識していない
- ⑤端末使用に関する制限
  - ア、制限なし イ、制限あり（内容： ）
- ⑥児童生徒の使用時間、内容常時管理ソフト等
  - ア、使っている（ソフト名 ） イ、使っていない
  - 例 授業支援ツール InterCLASS® Cloud

【3】自宅へ持ち帰る場合について伺います（※持ち帰りしないなら【4】へ）

- ①持ち帰りの目的は次のどれですか
  - ア、端末に慣れる イ、予習・復習 ウ、宿題 エ、オンライン授業
- ②紛失、破損の場合の誓約書などがありますか
  - ア、なし イ、あり（内容： ）
- ③充電の費用負担
  - ア、家庭 イ、学校 ウ、自治体 エ、充電しない オ、学校でのみ充電させる

④ネット環境がない家庭への対応

ア、モバイル Wi-Fi を貸与 イ、環境整備に補助 ウ、支援なし エ、行政が地域全体をカバー

⑤学校からの自宅での使用制限

ア、制限なし

イ、学校がフィルターを設定（内容： ）

ウ、（口頭で / 文書で）注意（内容： ）

【4】児童生徒へのネットリテラシー教育について

①児童生徒へのネットリテラシー教育は実施されましたか

ア、実施された（主催： ）（講師： ）

（実施時間帯：HR・保健・道徳・技術・その他（ ））

（内容： ）

イ、計画はあるが未実施

ウ、実施されていない

②学校+家庭の総使用時間（スクリーンタイム）が増加することへの注意喚起はしましたか

ア、学校・担任からした イ、養護教諭からした ウ、なし

【5】健康面の危惧も含めて文部科学省は保護者への丁寧な説明を求めています(文科省通達 2021/3/12)。

保護者への説明会は行われましたか。

ア、あった（主催： ）（説明者： ）

（内容： ）

イ、文書が配られた（内容： ）

ウ、なし

【6】教師への研修は実施されましたか

1人1台のタブレット配布によって、新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現が期待されています。そのための新たな教師の研修は実施されましたか。

①2020～2021年度、学校では教師にどんな研修が実施されましたか

ア、タブレットの使い方（講師： ）（参加： 割）（ 回）

イ、教科別利活用法（教科： ）（講師： ）（参加： 割）（ 回）

ウ、ネットリテラシー教育（講師： ）（参加： 割）（ 回）

エ、主体的・対話的で深い学びについての研修（講師： ）（参加： 割）（ 回）

オ、実施されていない

②教師の連携について

小学校は学年別、中学校は教科担任でタブレットの使用方法や共通の資料づくりなどための会議を行っていますか

ア、定期的に会議をしている イ、必要な時に ICT 担当教員が呼びかけ ウ、会議はしていない

【7】タブレットを使用してみてのメリット、デメリットをご記入ください